

フィンドレー大学留学報告書

鈴木ひばり

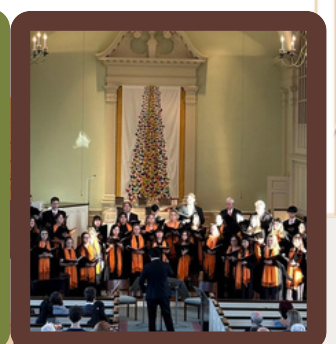
11月に入り、フィンドレーはとても肌寒い季節となりました。私たち日本人はとても厚着をしてこの寒さを凌いでいるというのに、ネイティブの方々はショートパンツ一枚で颯爽と歩いているのを見ると同じ人間なのにこれほどまで違うのかと驚きです。

11月はたくさんのごことがありました。

まず、私が所属しているコーラスの授業のコンサートが11月5日にありました。私はこの授業が本当に大好きで、この授業を教えてくださいと先生のごことも大好きです。コンサートは私たちの友達が沢山来てくれて、アメリカという見知らぬ土地でこんなにも沢山の友達に恵まれたことに感銘を受けました。

そして、11月はなんと言ってもサンクスビギンズがありました。サンクスビギンズはアメリカの中でもとても大きな行事です。このサンクスビギンズの期間はほとんどの人が仕事を休んで家族と時間を過ごします。日本はアメリカと比べると、家族との時間よりも仕事の方が大事という文化を感じるので、サンクスビギンズの文化に憧れを抱きました。私は有難いことに3軒もお家に招いていただき、様々な家庭のサンクスビギンズを体験させていただくことができました。また、ブラックフライデーにも行き、値引きされている商品の中から自分の欲しいものを戦って勝ち取る勝負も挑んできました。

留学も4ヶ月目になり、様々な人との交流が深まってきました。友達もたくさんでき、毎日楽しい日々を送っています。



11月は留学を半期で終える人にとっては最後の1ヶ月です。私は1年いるのであと半期ありますが、時間が過ぎることの早さを身を持って実感しています。初めは慣れ親しんだ日本に帰りたと思っていたのに今ではあと半年という月日の短さを嘆く気持ちでいっぱいです。

最近脳も英語脳にシフトしてきており、今日本語を綴っていることに違和感さえ覚えます。英語圏で育った人達は私がこんなにも必死に勉強している英語を生きただけで身につけられたのかと思うと羨ましくも思います。日本語という言葉は日本という島国でしか使われておらず、日本人以外とコミュニケーションを取るときに使うことができません。とてもマイノリティな言語に感じることも多々ありますが日本語にしかない美しい表現やニュアンスなど日本語をもっと好きになる機会もたくさんあります。

そして、ここで色々な人と過ごすことによって自分の性格をより深くまで知ることが出来ました。自分の長所や短所をよく知ることができるいいきっかけになったので今ここで知ったことを活かしてこれからも頑張っていきたいです。

